

8 学校における生徒指導体制

生徒指導とは、児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のことです。したがって、生徒指導は学校の教育目標を達成する上で重要な機能を果たすものであり、学習指導と並んで学校教育において重要な意味を持つものと言えます。

生徒指導の目的は、児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えると同時に、自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支えることです。

この生徒指導の目的を達成するためには、児童生徒が、深い自己理解に基づき、主体的に問題や課題を発見し、自己の目標を選択・設定して、自発的、自律的、かつ、他者の主体性を尊重しながら、自らの行動を決断し、実行する力、すなわち、「自己指導能力」を獲得することが目指されます。そのためにも、多様な教育活動を通して、児童生徒が主体的に課題に挑戦してみることや多様な他者と協働して創意工夫することの重要性等を実感することが大切です。

現在、「新しい時代に求められる資質・能力を育む教育課程を実現するための体制整備」「複雑化・多様化した課題を解決するための体制整備」「子供と向き合う時間の確保等（業務の適正化）のための体制整備」のために、「チーム学校」を実現することが求められています。「チーム学校」とは、「校長のリーダーシップの下、カリキュラム、日々の教育活動、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして能力を発揮し、子供たちに必要な資質・能力を確実に身に付けさせることができる学校」と定義されています。そのような「チーム学校」を実現するためには、次の4つの視点が必要になります。

① 教員と専門スタッフとの連携・協働体制の充実

教員が教育に関する専門性を共通の基盤として持ちつつ、それぞれ独自の得意分野を生かしチームとして機能すると同時に、心理や福祉等の専門スタッフを学校の教育活動の中に位置付け、教員と専門スタッフとの連携・協働の体制を充実させること

② 学校のマネジメント機能の強化

校長がリーダーシップを発揮し、校長の権限を適切に分担する体制や校長の判断を補佐する体制の整備によって、管理職もチームとして取り組むこと

③ 教職員の専門性を高め、それを発揮するための環境の整備

教職員がそれぞれの力を発揮し、伸ばしていくことができるようにするために、校務分掌や校内委員会の持ち方、業務の内容や進め方の見直し等に取り組むこと

④ 教職員間の同僚性の形成

教職員同士が支え合い、学び合う受容的・支持的・相互扶助的な人間関係を構築すること

また、学校を基盤としたチームによる連携・協働を実現するためには、学校に関係する人々に次のような姿勢が求められます。

① 一人で抱え込まないこと

② どんなことでも問題を全体に投げかけること

③ 管理職を中心に、ミドルリーダーが機能するネットワークをつくること

④ 同僚間での継続的な振り返り（リフレクション）を大切にすること

(引用・参考)

文部科学省「生徒指導提要」(令和4年12月改訂)「第1章生徒指導の基礎」、「第3章チーム学校における生徒指導体制」